滋賀の環境トピックス

第 72 回全国植樹祭を開催しました！

＜全国植樹祭推進室＞

去る６月５日（日）、晴天のなか、第 72 回全国植樹祭しが 2022 が開催されました。甲賀市「鹿深夢の森」を主会場に、一般植樹会場３か所、サテライト会場３か所に、約 12,700 名の方々が集いました。

「『森ー川ー里ー湖』のつながりを大切に、森林とびわ湖を次世代へつないでいこう」という開催理念です。主会場では、ナビゲーターに西川貴教さん、安藤けいさん、総合司会者にＮＨＫ放送研修センターの野村正育アナウンサーを迎え、「木を植えよう びわ湖も緑のしずくから」を大会テーマに、記念式典と滋賀の物語を盛り込んだ３部構成によるアトラクション（プロローグ～これまでを知る～、大会テーマの表現～今、誓う～、エピローグ～未来へつなぐ～）を展開しました。

プロローグとエピローグのアトラクション

特に、プロローグアトラクションにおいて、古代より育まれてきた森林やびわ湖と人との関わり、暮らしの変化に伴う森林の荒廃やびわ湖の環境汚染、そして県民による気づきと保全活動により元気を取り戻していく森林とびわ湖の様子を、子役と「うぉーたん」による掛け合いと華やかなダンスパフォーマンスで展開した滋賀らしい演出は、多くの人々に感銘を与えました。

また、昨年につづき、オンラインで御臨席の天皇皇后両陛下の前に、未来の森づくりを担う「緑の少年団」32 団、129 名が本県各地から参加しました。両陛下のお手植え・お手播きの樹種説明、招待者記念植樹の介添え、苗木の贈呈など、重要な役割をはたしました。

天皇皇后両陛下と「緑の少年団」

さらに、森林を守り、活かし、それを支える県民の誓いとして、未来を担う世代の代表者が、木々を植え育むこと、木を暮らしに生かしていくこと、森や川や湖とともに生き大切にすることを胸に、緑ゆたかな森と碧く輝くびわ湖を未来へつないでいくことを全国に発信しました。

びわ湖水源の森林（もり）づくりへの誓い

○全国植樹祭の式典とアトラクションの様子をもっとご覧になりたい方はこちらから。
http://www.pref.shiga.lg.jp/syokujusai-shiga2021/326452/index.html

世界が認めた！滋賀の農林水産業「琵琶湖システム」

＜農政課＞

令和４年７月 18 日、「森・里・湖(うみ)に育まれる漁業と農業が織りなす琵琶湖システム」が、国連食糧農業機関（FAO）の『世界農業遺産（GIAHS)』に認定されました。

「世界農業遺産」は、社会や環境変化に適応しながら継承されてきた独自性のある伝統的な農林水産業と、その文化、景観、農業生物多様性などの一体的なシステムを FAO が認定する仕組みで、世界で 23 か国 72 地域、日本では 13 地域が認定されています（令和４年 11 月 21 日現在）。

「琵琶湖システム」は、水田営農と深く関連しながら発展してきたエリ漁などの琵琶湖の伝統漁業を中心に、豊かな生物多様性を育んできた「魚のゆりかご水田」や「環境こだわり農業」などの農業、「フナズシ」などの伝統的な食文化、さらに、河川を遡上する湖魚の産卵環境の保全に寄与する多様な主体による森林保全の営みなどから形づくられています。

今回の認定を契機に、県産農林水産物のブランド化や地域資源を活かした観光産業の推進など、力強い産業づくりと地域活性化に取り組み、「琵琶湖システム」を次の世代への贈り物として引き継いでいきます。一緒に滋賀の農林水産業を盛り上げていきましょう！

滋賀県 CO_2ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例を改正し、滋賀県 CO_2ネットゼロ社会づくり推進計画を策定

<CO2 ネットゼロ推進課>

地球温暖化による気候変動は、自然環境への影響だけでなく、自然災害や健康被害、生態系への影響など様々な課題を引き起こしており、温室効果ガス排出削減に向けた取組は世界中に広がっています。

このような中、県では国に先立つ 2020 年１月に、2050 年までの二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す「しが CO_2ネットゼロムーブメント」キックオフ宣言を行いました。

この実現に向け、関連する条例や計画類の見直しを行い、2050 年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロとする目標を掲げるとともに、2030 年度に 2013 年度比で温室効果ガス排出量 50%削減※という目標を新たに設定しました。また、地球温暖化対策とエネルギー政策を一体的かつ効果的・効率的に進めていくための計画に改めるとともに、気候変動への影響に対処するための地域気候変動適応計画としても新たに位置づけました。

※50%削減の目標に満足せず、さらなる高みを目指すとしています。

取組を進めるにあたっては、温室効果ガス排出量の削減のみを目指すのではなく、地域や産業の持続的な発展にもつながる「CO_2ネットゼロ社会」の実現を目指していきます。

「びわ湖の日」PR 動画を作成し、県内外へ情報発信を実施

<環境政策課、琵琶湖保全再生課>

令和４年度は、「びわ湖の日」や「びわ活」（琵琶湖を守る、琵琶湖と暮らす、琵琶湖と親しむ、といった琵琶湖と関わるさまざまな取組や活動）をきっかけに、本県の環境保全の歴史や琵琶湖の魅力に気づいていただくため、県内外の若年層をターゲットとした PR 動画を作成し、発信しました。

PR 動画は本編と５つのテーマ（遊ぶ、食べる、拾う、映える、想う）で琵琶湖との関わり方や、琵琶湖版 SDGs である MLGs（マザーレイクゴールズ）のつながりを紹介しています。

「びわ湖の日」PR 動画は、下の二次元コードからご覧ください。

第４回アジア・太平洋水サミットにおける情報発信

＜琵琶湖保全再生課＞

令和４年４月 23 日、24 日の２日間、熊本市において第４回アジア・太平洋水サミットが開催され、主催地を除き、日本国内の自治体では唯一、滋賀県が分科会や現地展示会に参加し、琵琶湖の水環境保全の取組を世界に発信しました（詳細は P.102）。

本サミットでは、「持続可能な発展のための水 ～実践と継承～」をテーマに、アジア・太平洋地域の首脳や国際機関の代表などが対面やオンライン、ビデオメッセージで参加され、水問題の解決へ連携を強化し、持続可能で災害に強い「質の高い社会」の実現を目指す「熊本宣言」が採択されました。

「水と環境」分科会での三日月知事の発表（令和４年４月 23 日）

琵琶湖流域下水道 50 周年を迎えました。PR 動画配信中！

＜下水道課＞

琵琶湖流域下水道は令和４年３月に５０周年を迎えました。県と市町で急速に下水道整備を進めてきたことで、現在では県民の約９割が下水道を使えるようになり、琵琶湖の水質保全に大きく貢献してきました。50 年という節目の年に、今ではあって当たり前となっている下水道について考えていただくため、さまざまな企画を実施しました。

・マンホール蓋デザインコンクール

今回滋賀県として初めて、県民の方々からマンホール蓋のデザインを募集しました。応募数 2,200 点の中から優秀賞４作品を選定し、デザインが描かれた実物マンホール蓋を作成しました。

優秀賞４作品　実物マンホール蓋

・記念対談

知事と東京大学 加藤裕之特任准教授で、県の下水道の歴史や今後の取り組みについて対談いただきました。以下の URL からぜひご覧ください。

http://youtu.be/iKGd8YGZALQ

記念対談の様子

（左から、e-radio パーソナリティー 井上麻子さん、三日月大造滋賀県知事、東京大学 加藤裕之特任准教授）

・下水道 PR 動画

下水道の歴史、仕事内容、浄化センターの役割について紹介した動画を滋賀県公式 YouTube チャンネルにて配信しています。

・記念誌（50 年のあゆみ）

琵琶湖や下水道の変遷についてまとめ、電子データを滋賀県 HP に掲載しています。

https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kendoseibi/suido/324032.html

・環境教育動画

下水道の役割や正しい使い方などを説明しています。DVD での貸し出しが可能ですので、学校や勉強会等でご活用ください。